

4. ソウル大学校奎章閣・韓国国立中央図書館および ソウル特別市立鐘路図書館での地図デジタルアーカイブの見学記録

小林 茂（大阪観光大学、大阪大学名誉教授）

山本健太（國學院大學経済学部）

関根良平（東北大学環境科学研究科）

外邦図研究の過程で、これまで「外邦図デジタルアーカイブ」（東北大学）、「お茶の水女子大学外邦図コレクション」（お茶の水女子大学、大型の兵要地誌図画像を公開）、「アメリカ議会図書館蔵初期外邦測量原図データベース」（大阪大学）と三つの地図画像データベースが構築されて、公開を開始している。これらのデータベースの運用については、さまざまな課題が明らかとなり、現在その克服にむけてどのような方策が可能か検討を続けているところである（宮澤ほか 2008；村山ほか 2009；宮澤ほか 2009；山本・小林 2012）。

このような作業に際して、諸外国の地図画像データベースの構築や運営がどのように行われているかは大きな関心事であり、これまで台湾の中央研究院の視察を行った（山本 2013）。すでに同研究院歴史語言研究所の汜毅軍先生、廖汝銘地理資訊科学研究專題中心研究助技師、さらに国立東華大学台湾文化学系の郭俊麟助理教授を通じて、その歴史 GIS システムに接していたので、この訪問では、さらにこれを深く知ることができ、技術的にも参考になることが多かった。

他方、これまで韓国の研究者とは外邦図研究について情報を交換してきたが、その地図画像データベースについては未知のことが多く、文字通りの最初の見学となった。お世話くださった李賢郁梨花女子大学校社会科教育科研究教授ならびに付き添ってくださった李相泰国際文化大学院大学碩座教授にはさまざまなご配慮をいただいた。

見学先となったのはまずソウル大学校奎章閣と国立中央図書館で、いずれも 2013 年 11 月 26 日に訪問した。午前中に訪問したソウル大学校奎章閣では李賢郁先生が、午後に訪問した国立中央圖書

館では、同先生の姉に当たられる方に通訳をつとめていただいた。また 11 月 29 日には山本がソウル特別市立鐘路図書館で補足的な調査を行った。これに際しては梨花女子大学大学院生（当時）の申知燕さんに通訳をお願いした。

ソウル大学校奎章閣・国立中央図書館いずれも韓国の代表的古地図を収蔵する機関であり、それは韓国のナショナルアトラスの古地図版ともいべき『韓國古地圖』（韓國圖書館學研究會 1977）、『韓國の古地図』（李 1991）、Old Maps of Korea（『韓國の古地図』（Lee 2005；[李著・山田・佐々木・渋谷訳 2005]）、さらに近刊の『国土の表象』（韓国古地図輯編纂委員会 2012）によくあらわれている。したがって、近代地図、とくに植民地期の地図の画像データベースの公開事情に関心を持つ私たちの訪問は、ソウル大学校奎章閣・国立中央図書館で対応してくださった方々にとっては、意外なものであったと思われる。ただしいずれの機関でも、古地図画像のデータベースについて概要を丁寧に教えていただいたことに感謝したい。

1. ソウル大学校奎章閣

ソウル南部に広大なキャンパスを持つソウル大学校の奎章閣については、あらためて紹介するまでもなく、朝鮮王朝（李朝）の王室図書館の系譜を引く施設であり、古書、古文書、古地図など多彩な文化財を収蔵するだけでなく、展示設備もち博物館としての機能も備えている（奎章閣資料研究部 2005）。筆者のうち小林は閲覧者あるいは見学者として奎章閣を訪問したことがあったが、今回は李相泰先生のご案内で、閲覧者や見学者には入れないゾーンにいきなり入れていただいた。



図 1：奎章閣で古地図のデジタル画像の説明を受ける（左端が孫榮祥氏、中央の紳士が李相泰先生、隣が李賢郁先生）

ここでは情報管理部室長の朴淑禧氏のもとで、孫榮祥氏の説明を受けた（図 1）。奎章閣の地図は 2000 年ころからデジタル化を開始し、同時にアナログのスライドフィルムも残しているとのことであった。デジタル化に際して留意しているのは、細部までよく見えるようにすることで、公開用画像の解像度は 600dpi としており、閲覧の速度は落ちるが、原本の 300%までの拡大を想定している。また地名については、よく読めるだけでなく、地名から地図のどこにあるか検索できるようになっている。画像に関するソフトはクリスタル（KRYSTAL）で、ORACLE と組み合わせて使っているという。

山本と小林は『歴史 GIS の地平：景観・環境・地域構造の復原に向けて』に「外邦図の活用」という論考を寄稿した際、外邦図デジタルアーカイブと地名辞典との連携について言及したが（山本・小林 2012: 63-66）、その実現は遠い将来と考えていた。奎章閣の場合、そうした地名検索が可能になっていることにも強い関心を引かれた。重要古地図を対象としているだけあって、こうした検索は歴史や地理の研究にも重要な意義を持つと考えられる。

なお奎章閣の古地図画像の閲覧窓口については、末尾でまとめて触れたい。



図 2：国立中央図書館の特徴的な正面

2. 国立中央図書館

国立中央図書館は朝鮮総督府図書館の系譜を引く図書館で、現在は瑞草区にあり、やはり漢江の南となる。特徴的な新しい建物の図書館である（図 2）。この図書館研究所の奉成奇古典運営室長と古書専門員の李起鳳氏らの説明を受けた。

古地図のデジタル化は 1990 年代の半ばから開始し、1998 年からサービスを開始したという。1000dpi の解像度のカメラで撮影し、公開用は 220%まで拡大できるようにしている。またデジタル化の終わった古地図は 1,000 枚を超えるということであった。地図の年代は 1600 年代のものが最も古く、新しいものは 1910 年までである。ソフトはやはり KRYSTAL を使用し、地名についても索引を付けているが、地名をクリックすれば地図に表示されるようなサービスは提供していない。

私たちの近代地図に関する質問に対し、この室は古典籍を主としているため扱っていないが、逐次刊行物に関連する部署では日本軍作製の印刷図を扱っているとのことであった。また植民地時代の土地に関する図面（地籍図と思われる）は、国家記録院（城南市）が多く保有しているが、まだ目録はないという。加えて、植民地期の韓国の地形図については、ソウル特別市立鐘路図書館が画像を公開していることもご教示いただいた。この鐘路図書館の地図画像データベースについては、次に触れたい。

なお、国立中央図書館は韓国の中心的図書館として全国の古地図のデータベースの入り口となるようなサイトをホームページに作っている。これはたいへん便利なので、関心のある方は、以下の URL からご覧いただきたい。

http://www.nl.go.kr/map/c3/page1_1.jsp

この URL にあらわれる最上段のアイコンが国立中央図書館の、次が奎章閣の地図画像データベースへの入り口となる (図 3)。

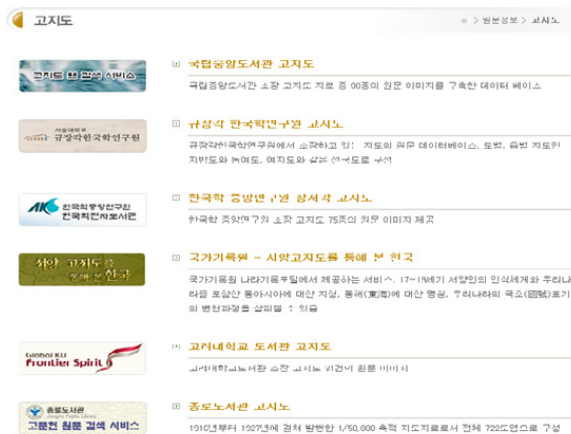


図 3 : 国立中央図書館のホームページに見られる地図データベースへの入り口

3. ソウル特別市立鐘路図書館

植民地期の韓国の地形図の画像データベースを公開しているのが、ソウル特別市立鐘路図書館である。1920年に開設された伝統のある図書館で、日本書も多く収蔵するという (宇治郷 1985)。

訪問して問い合わせたところ、「鐘路図書館古地図」というデータベース構築に当たって、原図は所蔵しているが、デジタル化は国の機関である国史編纂委員会が行い (2007年)、公開に至ったという。また公開している地図は、図 3 最下段のアイコンの右に書かれているように、1916~27年に作製された 5 万分の 1 地形図である。秘図は含まれておらず (「白頭山」図幅など国境地帯の図は等高線が省略されている)、図幅の右下に「京城府立圖書館鐘路分館」のゴム印のほか日本語で「注意手につばをつけないであけて下さい」とするゴム印が見られるところからしても、もともとは植民地期に来館者の閲覧に供されていたものであろう。

デジタル化の詳細については、国史編纂委員会の研究編纂情報化室の情報化運営担当の方に尋ねてほしいとのことで、今後機会があれば調査してみたい。

以上、ソウル大学校の奎章閣、国立中央図書館、ソウル特別市立鐘路図書館と三つの施設での見学の経過と結果を示した。韓国における植民地期の地形図画像の公開状況だけでなく、朝鮮王朝時代の古地図の公開状況も合わせて知ることができ、外邦図デジタルアーカイブの今後の公開を考える上で参考になることが多かった。

今後も韓国では朝鮮王朝時代の古地図が重視されると考えられるが、他方植民地時代の地図を主に掲載する『地図: 20 世紀東アジア歴史物語』(ソウル市立大学博物館、2013 年) のようなアトラスも刊行されているところから、近代地図への関心も高まる可能性もないわけではない。現在外邦図デジタルアーカイブでは、韓国の地図の公開を行っていないが、今後は公開に向けた準備が必要と考えられる。

末尾になるが、三つの図書館の関係者の皆さん、李賢郁先生、李相泰先生、さらに通訳を務めて下さったお二人にあらためて感謝したい。

文献

宇治郷毅 1985. 探訪記 ソウル特別市立鐘路図書館. 参考書誌研究 (国立国会図書館) 29: 55.

韓国古地図輯編纂委員会 2012. 『国土の表象 (Land in Old Maps)』東北亜歴史財団 (韓文).

韓国圖書館學研究會 1977. 『韓國古地圖』韓國圖書館學研究會 (韓文).

奎章閣資料研究部 2005. 『奎章閣』ソウル大学校奎章閣

宮澤仁・照内弘通・山本健太・関根良平・小林茂・村山良之 2008. 外邦図デジタルアーカイブの構築と公開・運用上の諸問題. 地図 (日本国際地図学会) 46(3): 1-12.

宮澤仁・村山良之・小林茂 2009. 外邦図デジタルアーカイブの公開に関する課題. 小林茂編『近代日

本の地図作製とアジア太平洋地域：「外邦図」へのアプローチ』大阪大学出版会, 436-444.

村山良之・照内弘通・山本健太・関根良平・宮澤仁
2009. 外邦図デジタルアーカイブの構築の経過と今後の課題. 小林茂編『近代日本の地図作製とアジア太平洋地域：「外邦図」へのアプローチ』大阪大学出版会, 424-435.

山本健太 2013. 台湾視察の報告. 外邦図研究ニュー

ズレター, 10: 25-29.

山本健太・小林茂 2012. 外邦図の活用. HGIS 研究協議会編『歴史 GIS の地平：景観・環境・地域構造の復原に向けて』勉誠出版, 57-67.

李燦 1991. 『韓国の古地図』汎友社 (韓文).

Lee, C., 2005. Old Maps of Korea (Translated by Kim, S. and Yang, B.) [李燦著、山田正浩・佐々木史郎・渋谷鎮明訳『韓国の古地図』汎友社.